

# くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会

〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435

公式サイト <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2020年

3月号

3月17日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

## 3月17日 夕礼拝説教

「主イエスの洗礼と系図」武井 恵一牧師

ルカによる福音書3章21～38節 新約聖書106頁

### ルカによる福音書3章21～22節

<sup>21</sup>民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、<sup>22</sup>聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

神様から遣わされた神の子イエスが、聖霊によって洗礼を受けるといふ、短い個所ですが、新約聖書でマタイ・マルコ・ルカの共観福音書だけに記されている特別な出来事です。

この共観福音書に共通することは、天が開け、「聖霊が鳩のように」イエスのうえに降ってきたこと、そして、「わたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえてきたことです。イエスは人間として洗礼により、「聖霊」の注ぎを受けるとともに、神様の「愛する子」「神の子」であることが、ここに明らかにされています。神様ご自身が、独り子主イエスを人間の世界に遣わされました。そして、この聖書個所で「わたしの愛する子、わたしの心に適う者」として全宇宙にこれを宣言されたのです。

このイエスの洗礼の記事に次いでイエスの系図がしるされています。



### ルカによる福音書3章23～38節

<sup>23</sup>イエスが宣教を始められたときはおよそ三十歳であった。イエスはヨセフの子と思われていた。ヨセフはエリの子、それからさかのぼると、<sup>24</sup>マタト、レビ、メルキ、ヤナイ、ヨセフ、<sup>25</sup>マタティア、アモス、ナウム、エスリ、ナガイ、<sup>26</sup>マハト、マタティア、セメイン、ヨセク、ヨダ、<sup>27</sup>ヨハナン、レサ、ゼルバベル、シャルティエル、ネリ、<sup>28</sup>メルキ、アディ、コサム、エルマダム、エル、<sup>29</sup>ヨシュア、エリエゼル、ヨリム、マタト、レビ、<sup>30</sup>シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリアキム、<sup>31</sup>メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、<sup>32</sup>エツサイ、オベド、ボアズ、サラ、ナフション、<sup>33</sup>アミナダブ、アドミン、アルニ、ヘツロン、ペレツ、ユダ、<sup>34</sup>ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、<sup>35</sup>セルグ、レウ、ペレグ、エベル、シェラ、<sup>36</sup>カイナム、アルパクシャド、セム、ノア、レメク、<sup>37</sup>メトシェラ、エノク、イエレド、マハラルエル、ケナン、<sup>38</sup>エノシュ、セト、アダム。そして神に至る。

この系図はルカによる福音書だけではなく、マタイによる福音書にも記されています。

この系図に載せられたイエスという名は、天使からマリアに「あなたは身ごもって男の子を産むがその子をイエスと名付けなさい。」と告げられ、授けられた名前です。

イエス・キリストという名は世界中に知られ、英語には「ジーザズ・クライスト」、日本では「イエス・キリスト」です。「イエス」とは、ヘブライ語で言うと、「エホシュア」が一番近い発音で、短く「ヨシュア」がイスラエルでは一般的とされます。「イエス」は「主は救い」を意味します。

キリストはヘブライ語「メシア」のギリシャ語訳です。油を注がれた者の意味で救い主をあらわします。ですから「イエス・キリスト」は、日本語では「救い主イエス」です。

イエスの系図という小見出しのもとに、ルカによる福音書では77人の名前が主イエスから遡って「神に至る」系図となっています。主イエスの父(義理の父)ヨセフから「子から親へ先祖へ遡る名前」があげられ、アダムまで77人が、「神に至る」と神様につながります。

「神に至る」の言葉は、次のことを表します。系図の最初の部分をみますと「イエスはヨセフの子と思われていた。ヨセフはエリの子」とあり、順次に遡ると「アダム、アダムは神の子」となります。ですから、イエスは「神の子」としての系図にあることをルカ福音書では示しています。イエスの系図はイエスが「わたしの愛する子」すなわち「神の子」であることを明らかにしています。ですから、イエスの系図の本質は、代々父・母によって誕生し継続する「生物学的な『遺伝子』のつながりではない」と、理解されます。人間が調べ、歴史的事実のみを記した系図ではなく、神を信じる信仰により記された「天の神様に至るつながり」の系図です。

たしかに、現在では、人間の血統、「遺伝子」のつながりが科学的に解明され続けられています。けれども、わたしたちキリストを信じ、三位一体の「全能の神」を信じる者にとって「血統につながる、遺伝子継続」のつながりは究極的な絶対のつながりではありません。

イエスは「神に至る」、神につながる「神の子」であり、わたしたちキリスト者も、このつながりに招かれています。「三位一体の神様の現存在」にかかわる「霊的な、神による」つながりこそ、完全なつながりです。三位一体の神様を信じているわたしたちは、神とのつながりがある者として生かされています。

改めて考えてみますと、わたしたちは自分自身が、生き物として、人間として『生きたい』と望んで生まれ、生きているわけではありません。

全世界を創られた神様が「生き物を創造しようと考えられ」すべての生き物を、この世界に、創られました。「生物」として創られました。

それは、「生物が存在し、命を保つことのできる世界をも創造された」ということです。

わたしたちは神様によって、人間として創られ、存在しているのを知っています。



私たちが実際に「人間」として生きているのは、わたしたちが「生きたい」、「人間として生きたい」と考え、自ら、自分自身の意志で「生き物・人間」となったのではなく「神様」によって「人間」として創られた歴史があります。

神様は天地宇宙を創造され、命を創造され、人間を『人間という存在』としてこの宇宙に創り出されました。ここから天の父なる神様による歴史が始められたのです。

ご存知のように、「イエス・キリストの系図」は、今、取り上げているルカによる福音書だけではなくマタイによる福音書1章冒頭にも記されています。これは、人間による歴史的な系図を現すのとは違います。二つの系図に記されている人々の名前の中には、聖書で読んだことのある名前も記され、様々な説がありますが、神様の系図の中に、神様のまことの愛の真実が背景にあります。単に興味本位で取り上げるべきではないでしょう。

父なる神様は、「神につながる、神に至る」として記されている「神の子」イエスを「人間として生まれさせ」、「人間として生きるものとされ」ました。そして、このつながりは、わたしたちたち一人一人を神様とのつながりへと、道を開いてくださいます。イエス・キリストを通して祈る時、わたしたちは、神様のみ前に招かれます。このようにお話しするのは、わたしたち自身の、一人一人の人間の系図も聖霊によって、神様御自身に関わる膨大な事実として神様のもとに記録されていると理解するからです。

わたしたちは、神様にお祈りするときこのつながりを覚えて、多くの場合「身が引き締まる」のではないのでしょうか？

「自分の生きた記録、心に思った事柄」が、全部神様に知られ、保存されていることを思い起こしてください。一人静かに祈る時にあなたは、神様と出会うことでしょう。

神様の多くの慰めと愛が、お一人お一人にもたらされると思います。わたしは、皆様にメッセージをお話しする中で「神様は、わたしたち人間一人一人をいつも見ておられる」と、数えきれないほど繰り返しています。ですから、お祈りするときは緊張します。

今日は、もう一つ申し上げておきましょう。それは、祈りによって、神さまとのつながりに心を開く時、愛である神様の言葉に耳をかたむけざるをえなくなることです。

「神は愛です」という聖書の言葉は、教会に来ておられる皆様はどなたも知っていると思います。「神は愛です」という言葉は、「ヨハネの手紙一」でしっかり心に刻みつけられたことでしょう。

現代の日本社会、世界中の社会は、そして、キリスト教会は「それは分かっている」と言いつつ、都合がよい時だけの愛となっていないか、とわたしは痛みつつ思います。

このイエスの系図よるつながりは、代々父母によって誕生し継続する「生物学的な『遺伝子』のつながり」ととらえるべきでないでしょう。





わたしたちキリストを信じ、三位一体の全能の神を信じる者にとっては、それは、まことのつながりではなく、絶対的・究極的なつながりは神様の現存在にかかわる「霊的＝神的」なつながりなのです。

これは、「キリスト教の神様の存在を信じる」私たち自身が改めて再認識しなければならないことと言えます。

言うまでもありませんが、社会一般での系図は「血のつながり」が主流です。けれども、主イエスは、父なる神・聖霊の神、「神ご自身」による「霊のつながり」をもって、たとえ目には見えなくても生きておられます。そして、イエス・キリストによりわたしたちはそのつながりに招かれ、神様とのつながりがある者として生かされています。

三位一体の神様＝父なる神様、子なる神様イエス・キリスト、聖霊なる神様＝とのわたしたちのつながりは神様の愛のつながりです。わたしたちはその霊つながり、神さまの愛のつながりにより生かされています。

祈り 讃美歌(21) 511 「光と闇とが」

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。  
聖書 新共同訳：  
(c) 共同訳聖書実行委員会  
Executive Committee of The Common Bible Translation  
(c) 日本聖書協会  
Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

神様と「神の子」イエス、そしてわたしたちとのつながりこそ、真実のつながりです。

神様も、御子イエス・キリストも聖霊も真実の存在です。わたしたちが肉体の形を失っても、わたしたちと三位一体の神様とのつながりは続くのです。

たしかに、「遺伝子のつながり」がありますが、

新型コロナウイルスへの対応(礼拝は通常通り行います。)

#### 礼拝出席時の注意

現時点では、礼拝出席時のマスク着用は必要ありません。

マスクの需要が急増し入手が困難となっております。

無理に買い求めないで、マスクを必要としている方が手に入る様にして下さい。

一般的な花粉(2~4 $\mu$ m)に対応したマスクではウイルス(0.02~0.1 $\mu$ m)は防げません。

咳などで出る飛沫(5 $\mu$ m)拡散には有効ですが、体調が悪い場合には自宅で休んで下さい。

飛沫感染を防ぐために礼拝堂内では互いに離れて着席して下さい。

#### 定期教会総会

2020年度定期教会総会は4月19日(日)の礼拝後に予定通り行います。

お願い

様々な集会を休止していますが、杞憂であったと言える日が来ることをお祈り下さい。